

東京都と大学との共同事業 全体計画書

共同事業名	“CAMP in Campus for well-being” 大規模災害時の人間らしい避難生活をキャンパスで
代表者（所属）	水野 雅男（法政大学現代福祉学部教授）
共同事業者（所属）	佐野 浩祥（東洋大学国際観光学部教授）
	坂村 圭（東京工業大学環境・社会理工学院建築学系 特任助教）

（１）実施内容

【調査研究Ⅰ：避難所運営マニュアルの策定内容調査】

都内基礎自治体ごとの避難所運営マニュアルを分析します。

【調査研究Ⅱ：指定避難所の実態調査研究】

2019年の大型台風災害に備えた避難所開設の実態と発生した様々なトラブルを、都心（台東区等）と郊外（八王子市等）の行政関係者等へのヒアリング調査によりデータを収集分析します。

【調査研究Ⅲ：対象属性の分布と避難需要に関する調査研究】

対象とする属性（乳幼児を抱える子育て家族、外国人観光客、ホームレスの人々）が都心部と郊外部にそれぞれどのように分布しているのか、既存調査データを基に推測します。

【調査研究Ⅳ：大学キャンパスの資源性調査研究】

都内130あまりの大学へのアンケート調査によりデータを収集し、都心（23区内）に立地しているキャンパスと郊外（多摩地域）のキャンパスに分けて、キャンパスの資源性を整理します。

【実証実験】

キャンパス内でテント等を設営してキャンプ生活を体験する実証実験を複数回開催します。

【研究会】

避難所や災害復興分野の研究者、それぞれの対象（子育て家族、外国人観光客、ホームレスの人たち）に関わるNPO等市民団体等、熊本地震や昨年の台風災害時に避難生活支援を行っている企業の代表も加えて研究会を設けます。

（２）都民還元の方法

①実証実験の開催

都民（子育て家族）や外国人観光客を対象として、大学キャンパスでのキャンプ生活の実証実験を行います。

②シンポジウムの開催

実証実験の成果を基に、研究者と協賛企業、協力NPO団体、都民を交えて、キャンパスでの新たな避難生活拠点のあり方と今後の行動計画を話し合います。

以上